



ばとんぱす



教職員等記事
(平成15年4月導入)

編集・発行：熊本県教育庁教育政策課
〒862-8609 熊本中央区水前寺6丁目18番1号
Tel：096(333)2699
Mail：kyouikuseisaku@pref.kumamoto.lg.jp



県立特別支援学校の整備を進めています！

県教育委員会では、特別支援学校における児童生徒数の増加等に対応するため、平成23年5月に「県立特別支援学校整備計画」の策定以降、熊本かがやきの森支援学校(平成26年度開校)、熊本はばたき高等支援学校(平成31年度開校)、かもと稲田支援学校及び鏡わかあゆ高等支援学校(令和3年度開校)の新設校の他、高等学校等のスペースを活用して、特別支援学校の分教室を設置して参りました。現在は、高等学校等のスペースを活用して、特別支援学校の高等部を移転する準備を進めています。

現在、整備を進めている学校

校名	整備内容	供用開始時期(予定)
天草支援	天草拓心高校本渡校舎のスペースを活用し、高等部を移転します。	R4年度
松橋西支援	松橋高校のスペースを活用し、高等部を移転します。	R5年度
荒尾支援	岱志高校のスペースを活用し、高等部(一般学級のみ)を移転します。	R5年度
球磨支援	旧多良木高校跡地を活用し、全学部を移転します。※多良木中学校と隣接。	R6年度

高等学校の活用の背景には、特別支援学校が小中学部のみを対象として設計・開校された経緯から、現有地には増築可能なスペースがないという実情があります。



QRコード



整備 Q & A

Q 高校と特別支援学校が一緒になるの？

A 高校のスペースを活用して特別支援学校を設置するもので、同一敷地に異なる校種の学校が2校あるイメージです。それぞれの学校で入試も行い、日常の教育も別に行います。

Q 両校の交流はあるの？

A 障がいの有無に関わらず、共生社会の一員として認め支え合う態度や力は重要です。計画的・継続的な交流を行うことで、他校にはない貴重な学習の機会になると考えます。

Q 高校においても特別支援教育が重要と聞きますが？

A 特別支援教育は、高校を含め、全ての学校で実施するものです。本県の高校では、通級(※)による指導を7校で開始したり、全ての学校で誰もが分かりやすい授業づくりの研究を行ったりしています。特別支援学校は、そのような授業の知見や社会参加につなぐための進路指導のノウハウを持ち合わせていることから、有効な連携が図れるものと期待しています。

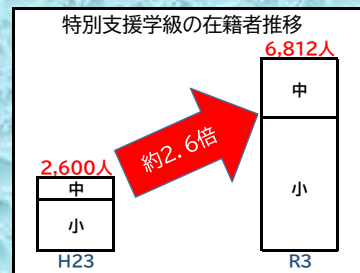
※「通級」とは…
通常学級に在籍する障がいのある生徒が、大部分の授業を通常学級で受けながら、障がいに応じた特別な指導を特別な場(通級指導教室)で受ける指導形態です。

この記事に関する問い合わせ先：特別支援教育課(096-333-2676)、高校教育課(096-333-2684)

一人一人のニーズに応じた授業を目指して！！

～「特別支援学級担当者指導力向上研修」実施中～

特別支援学級で学ぶ児童生徒は年々増加を続けており、令和3年度の熊本県の児童生徒在籍者は6812人で、この10年間で約2.6倍になっています。県ではこの現状を踏まえ本年度から4年間かけて、すべての特別支援学級担当者約1250人を対象に教育課程に係る研修、指導方法に係る研修などを通して指導力の向上を図っていきます。



研修では「障がいのある児童生徒の理解と支援」や子どもの様子に応じて生活や学習上のつまづきや困難を改善又は克服するための「自立活動」の指導に関する研修内容を実施しました。受講した研修内容を指導の改善・充実につなげるために「所属校での授業研究会」を行うなどして、指導力の向上を図っています。



研修の様子

受講者の感想



研修後、担当をする児童の個別の指導計画を見直し、研修で学んだ手順で再度作成しました。今はその計画を基に教具を作ったり、ICTを使ったりして指導しています。研修前と比べ、児童が意欲的になり、何より私自身が「授業が楽しい！」と感じています。

この記事に関する問い合わせ先：特別支援教育課(096-333-2676)



全国学力・学習状況調査から見える本県小・中学生の学力・学習の状況



本県では、「熊本の学び」の推進を支え、学力向上を目指す「熊本の学び」アクションプロジェクトを展開し、「誰一人取り残さない学びの保障」と「教員一人一人の授業力向上」に取り組んでいます。

今回、本年5月、小学校6年生と中学校3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。

※本調査結果の詳細については、[コチラ](#)



教科に関する調査の結果より【表1】参照

- ・小学校では、国語は全国平均を上回っており、算数は全国平均と同じ状況です。
- ・中学校では、国語は全国平均と同じ状況にあり、数学は全国平均を下回っています。

児童生徒質問紙調査の結果より【表2】参照

- ・「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っています。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合は、全国平均を下回り、中学校で減少しています。

【表1】教科に関する調査の結果

【表2】児童生徒質問紙調査の結果

	小学校6年生		中学校3年生	
	国語	算数	国語	数学
本県	66	70	64	55
全国	64.7	70.2	64.6	57.2

	学校に行くのは楽しい		家で自分で計画を立てて勉強している	
	小学校6年生	中学校3年生	小学校6年生	中学校3年生
本県	87.3	85.3	73.0	61.2
全国	83.4	81.1	74.0	63.5

※数値は平均正答率(%)、県の値は、国から整数値で公表されています。

※「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合

保護者の皆様へ

学力向上においては、子供自身が、学習内容(復習、予習、自分が興味があること)を決め、決まった時刻や一定の時間、継続的に家庭学習に取り組むことが大変重要です。子供たちが取り組んでいることを「認め、ほめ、励まし、伸ばす」ことで、子供たちのやる気も向上します。保護者の皆様には、今後とも、声かけや学習環境づくり等のご協力をよろしくお願いいたします。

この記事に関する問い合わせ先：義務教育課(096-333-2688)

幼児期の終わりから小学校入学への「円滑な接続」に向けたくまもとスタンダード

県では、就学前教育と小学校教育との円滑な接続に向けた取組を重点的に行っています。

今年7月には、「幼児期の終わりから小学校入学への『円滑な接続』に向けたくまもとスタンダード」を作成し、各学校等に配付しました。

小学校教育は、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて行うことが大切です。

「くまもとスタンダード」を活用してそれぞれの時期に必要な取組を各学校等において実施し、小学校に入学する子供たちが自己発揮できるようにしていきます。

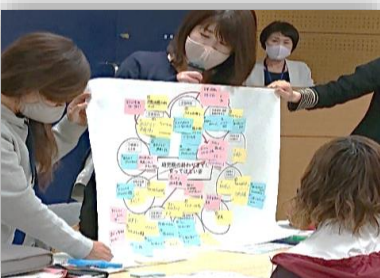
幼・保等、小、中の円滑な接続のためにこんな取組をしています。

◆連携協議会等への幼児教育スーパーバイザー派遣



保育を参観した小、中学校の教職員と、園の保育士等とで、園児の姿や指導の在り方について情報交換。幼児理解を図っています。

◆幼・保等、小、中連携セミナー



幼・保等、小、中の教員、保育士等が一堂に会し、演習を通して、連携・接続の重要性について学んでいます。

幼児期の終わりから小学校入学への「円滑な接続」に向けたくまもとスタンダード



資料

「幼児期の終わりから小学校入学への『円滑な接続』に向けたくまもとスタンダード」



この記事に関する問い合わせ先：義務教育課(096-333-2689)

ICT教育日本一目指し、県下の学校で着々と！

「まずは使ってみる！」からスタートした1人1台端末を活用した授業。多くの学校の様々な授業で実践が報告されています。そこにはたくさんの先生方の工夫が見られ、今後はさらに活用が進んでいきそうです。

子供たちの学びが大きく変わるということは、教師の指導方法も大きく変わることになります。従来型の一斉授業から、個人の実態に応じたきめ細やかな学びや、積極的に友達と一緒に課題を解決していく学びを行っていくことで子供たちの将来につながる確かな力を育てていきます。



8月23日に本年度九州初の高等学校優良校に熊本西高等学校が認定されました。



1人1台端末を活用したプログラミング学習の様子（美里町立砥用小学校）



英語の企画書作りに取り組む様子（あさぎり町立あさぎり中学校・外国語科）

【8月～10月に認定を受けた学校】※10月22日現在

八代市立植柳小学校(8/4) 阿蘇市立波野小学校(8/9) 小国町立小国小学校(8/9) 熊本県立熊本西高等学校(8/23) 菊池市立七城小学校(8/26) 苓北町立富岡小学校(8/26) 菊陽町立菊陽中部小学校(8/28) 玉東町立木葉小学校(8/31) 菊池市立菊池北小学校(8/31) 小国町立小国中学校(9/1) 甲佐町立白旗小学校(9/2) 水俣市立水俣第一中学校(9/6) 菊陽町立菊陽西小学校(9/6) 阿蘇市立一の宮小学校(9/9) 五木村立五木東小学校(9/15) 県立宇土中・高等学校(9/18) 八代市立第五中学校(9/25) 益城町立津森小学校(9/25) 菊池市立戸崎小学校(9/25) 阿蘇市立一の宮中学校(9/27) 阿蘇市立阿蘇西小学校(9/30) 菊陽町立菊陽南小学校(9/30) 南阿蘇村立白水小学校(10/1) 菊池市立菊池北中学校(10/5) 阿蘇市立阿蘇中学校(10/5) 大津町立大津小学校(10/5) 玉東町立山北小学校(10/7) 阿蘇市立内牧小学校(10/7) 菊池市立花房小学校(10/7) 南関町立南関第二小学校(10/7) 氷川町立竜北西部小学校(10/13) 南関町立南関第四小学校(10/14) 菊陽町立武蔵ヶ丘小学校(10/20) 益城町立木山中学校(10/22)

この記事に関する問い合わせ先：教育政策課（096-333-2673）

熊本県立青少年の家での生きる力を育む体験活動

～家族連れや友人同士での利用もOK！～

どなたも
利用可

日帰り利用
も可

『子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、意欲・関心や規範意識が高い人が多い』という調査結果があります。（独立行政法人国立青少年教育振興機構の調査研究による）県立青少年の家（天草青年の家、菊池少年自然の家、豊野少年自然の家、あしきた青少年の家）では、立地条件を活かした『生きる力を育む体験活動』を実施しています。



キャンプ



サップ



テント設営

キャンプファイヤー

このような活動もできます

- 野外活動
登山、川あそび、マリン活動等
- 創作活動
焼き杉、木彫り、切り絵等
- その他
キャンプファイヤー、ナイトゲーム、交歓活動等



熊本県立
青少年の家HP
(QR又は[コチラ](#)から)

この記事に関する問い合わせ先：社会教育課（096-333-2697）

装飾古墳館・菊文研講座開講！

鞠智城イメージ
キャラクターころろ君



今年度より例年開催していた鞠智城講座を「装飾古墳館・菊文研講座」に統合し、県内外の専門職員が最新の調査研究成果と文化財情報を提供する講座を開催しています。

第6回講座は、当館文化財整備交流課長の岡本真也が『一築城の担い手を考える・研究の現状と課題ー』と題して古墳時代の前方後円墳や石製表飾の広がりやを足がかりに築城に関わった人々にせまりました。

第7回講座は当館館長の廣田静学が、『古代の菊池川水運と上小田宮の前遺跡ー』と題して、玉名市小田宮の前遺跡の調査成果と周辺遺跡の調査成果を基に古代官道を中心に集落が立地していること、菊池川が運搬に重要な役割を果たしていることを示しました。



第6回装飾古墳館・菊文研講座の様子(R3.9.19)

11月中旬より後期講座の募集を開始予定！多くの参加お待ちしております！

- R3.12.19 鞠智城を考えるⅤー周辺遺跡からわかる機能の変遷ー(仮題)
- R4.1.16 鞠智城を考えるⅥー鞠智城の歴史的環境(山鹿市を中心に)ー(仮題)
- R4.2.6 四十九池神社の祭礼ー受け継がれる葉と花火ー(仮題)
- R4.2.20 鞠智城を考えるⅦー鞠智城研究のこれまでと未来ー(仮題)
- R4.3.13 熊本県の歴史と文化財(仮題)

お申し込み先：0968-36-2151 熊本県立装飾古墳館

※講座の参加には、事前の予約が必要です。

この記事に関する問い合わせ先：歴史公園鞠智城・温故創生館（0968-48-3178）